

ここに残る景観資源発掘委員会の概要

①ここに残る景観資源発掘委員会の開催状況及び主な議事内容

開催日		主な議事内容
第1回	2019/11/20	<p>→事務局よりまちかど審査の上位20件について現地の写真と動画を説明。</p> <p>(応募作品選考の際に考慮した事項)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 住民活動によって良い景観が作られている作品を選出 ・ 頭の片隅に残っているような作品を選出 ・ 連続したまちなみを選出 <p>→21作品(19か所)を一次選考。</p>
第2回	2019/12/4 (現地調査)	<p>→現地調査(一次選考+まちかど審査上位3位※周辺や重複あり)の実施</p> <p>(現地調査時の選考時の主な意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 異なる季節であってもイメージができるか ・ 民俗学的な面白さにより、子どもの頃の思い出を喚起させるが、今回の選考に際してここに残るまち景観として選出してよいのか検討したい ・ 今回のテーマではなく、次回以降のテーマでもう一度審査したい ・ 今後も続けてほしい取り組みであり、応援したい <p>→現地調査を行い、最終選考に際しては「まちなみや地域を特徴づけ、魅力が感じられる」、「地域への愛着やつながりが感じられる」及び「人々の営みや関わり、暮らしぶりが感じられる」の3つの視点により審査することを確認</p>
第3回	2019/12/11	<p>→これまでの議論や現地調査の結果を踏まえ、一次選考作品について選考</p> <p>(推薦作品の審査に関すること)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 今後も重複する可能性が高い岸和田城や久米田池などについて、同じ場所で異なるエピソードやタイトルを重ねて景観資源の指定をすることを想定する場合、応募者の思いをできる限り反映したほうが良いと考える。 ・ エピソードや写真は良いが、現地調査を行った結果、人々の息づかいなど、生活感を感じることができなかった作品の選出は難しいと考える。 <p>→推薦資源を10件とし、総評案及び講評案を作成。</p>

②ここに残る景観資源発掘委員会 現地調査の様子



阿間河滝町長屋門坂



夕暮れの北阪



時を越えて(春木中学校の赤レンガ)